

令和4年度「共に都井の子どもを育む学校評価」

都井小学校				現状及び課題解決に向けての今後の改善策	
評価項目	評価の視点	到達目標	学校評価	現状	今後の改善策
学力向上	<p>【授業改善等による学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びを培う都井小スタイルの確立 ○ 経年変化による学力調査分析や組織的な取組の工夫・改善 ○ 主体的な学習により学びに向かう力の育成による複式指導の充実 <p>【家庭学習の充実・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年30分、中学年1時間、高学年1.5時間の家庭学習を指導 ○ 臨時休業・夏季・冬季・学年末休業中における計画的な家庭学習のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> □ 全国学力・学習状況調査（6年）みやざき学力調査（5年）で全国・県平均点を上回ると共に、串間市学力調査で全国平均を上回る。 □ 単元ごとの形成テストで達成目標点（約80点）を上回る…70%以上 □ 家庭との積極的な連携の工夫（読書・メディアコントロール） □ 学習時間の達成率…70%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の目配りが学力にも成果が表れているのではないかと。小規模校の強みで先生方の目配り気配りをお願いします。（2） ○ 今年度は校時程を工夫し、児童がどの曜日でも同じ時刻で学習活動に取り組めるようにした。職員にとっても、放課後の会議や教材研究等の時間を生み出すことができた。 ○ 全国学力・学習状況調査結果では、国語については県及び全国平均正答率と同等であったが、算数・理科については、及ばなかった。 ○ 朝自習やぐんぐんタイムにおいて、各種学力テストの過去問題や類似問題に取り組んでいる。また、基礎計算力や数的な感覚を高めるため、各学年に応じたマス計算に取り組んでいる。 ○ 指導体制を工夫して複式指導を解消し、学習効果を高めることに努めている。 ○ ICTを活用した学習を工夫することによって、自力解決を促す授業を目指して取り組んでいる。 ○ 今後も先生たちの学習指導の在り方など、工夫した学習の展開を進めていただきたい。 ○ タブレットを活用した家庭学習を取り入れ、効果的な家庭学習の形を模索する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童の読書に対する関心意欲を高め、読書量や内容の充実を図る必要がある。 ● 「算数がわからんとよ。」と話すそんな子どもに、どうにか算数がわかる機会が欲しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力検査結果の分析に基づいた全体的な取組と各学年児童の実態に寄り添ったきめ細かな取組を行っていく。 <ul style="list-style-type: none"> その際、全体的な傾向と個人差に対応できるように、時間の確保や指導体制の工夫などに取り組んでいく。 ○ 学校における学習と家庭での学習が連続するように、家庭との連携しながら家庭学習の充実を図る。その際、課題の内容や質も改善を図っていく。 ○ 書くことによる学習効果に加え、タブレット活用による効果的な活用により、個人差に対応した学習の充実を図る。 ○ 外部人材（大学生等）の活用も視野に入れて、個別指導の工夫を図っていく。
生徒指導	<p>【積極的な生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや体罰は絶対に許さない体制の構築と不登校・問題行動の予防 <p>【人権・特別支援教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権・特別支援教育への意識向上を図るために研修の充実を図る。 <p>【あいさつ・言葉遣い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気なあいさつと時と場をわきまえた思いやりのある言葉遣いの指導の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 月に一度の意識調査実施と結果の検討 □ いじめや不登校を未然に防ぐこまめな児童観察と校内体制の充実 □ 特別支援教育・人権教育についての研修を実施するとともに、学期に1回、校内就学指導委員会を実施する。 □ 朝の立番指導や職員室等入室の際のあいさつ指導を継続的に指導する。 □ 保護者、職員の満足度（挨拶、言葉遣い）5段階で自己評価3以上が100% 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月1回、心のまどアンケートにより児童の不安や悩みを把握し、早期発見と早期解決につなげるようにしている。 ○ アンケートや教育相談を通して懸念される事案については、まきばの子委員会（いじめ不登校等対策委員会）において、全職員で共通理解と協議により、よりよい解決に向けて対応している。 ○ 生徒指導主事を中心としながら、児童のあいさつや廊下歩行、トイレのスリッパ、後片付けなど、集会や放送を通じて全体的な指導を行ったり、各学級で指導を行ったりしている。 ○ 学校内でも地域内でもあいさつはよくしてくれます。学校での指導や家庭での声かけもよいのだと思う。 ○ 人権、特別支援教育は大変ですが、大切です。工夫した指導をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ● 少しあいさつが元気で感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も日々の観察や児童の意識調査、職員同士の状況情報交換に加え、保護者や地域からの情報をもとに、計画的または臨時に問題解決に向けた対応に努める。 ○ 小中高一貫教育の連携のもとに、積極的な生徒指導の充実を図っていく。 ○ 子ども達が主体となってあいさつ運動に取り組めるような仕掛けも工夫していきたい。
体力向上	<p>【体力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外遊びの励行を通して、進んで体を動かそうとする態度と運動の日常化を図る。 ○ 体育の授業改善を通して体力の向上の大切さを意識させる、 <p>【食育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 弁当の日を設け、家庭と連携して、早寝・早起き・朝ご飯の実践など望ましい食生活の改善に努める。 <p>【健康意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい日常に対し、命を守る正しい知識のもとに、社会の中で実践できる行動様式を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 体力テストで県平均よりも劣っている項目をなくす。 □ 授業改善のための情報交換及びパワーアップタイムの設定、外遊びの励行 □ 毎学期1回「弁当の日」を設定し、「給食残菜ゼロ」の日を増やす。 □ 保健便り及び学校保健委員会での啓発 □ マスク、検温、消毒等の徹底 □ 学校での手洗い、うがいの励行、むし菌治療率60%以上 □ 身近な人に悩みを気軽に相談できる雰囲気醸成 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力テストの結果をもとに落ち込んだ領域の体力向上につながる運動遊びの場を設置し、児童が主体的に取り組めるようにした。 ○ 県より講師を招聘して体育実技研修を行い、授業に役立てるようにしている。 ○ 休み時間の過ごし方もいろいろ工夫されている。少人数でもそれなりに外遊びを楽しんでほしい。 ○ 弁当にの日は事前に献立や弁当作りまでの計画を立て、発達段階に応じて取り組んでいる。 ○ 弁当の日の取組は良いです。弁当を見ることで家庭の親子関係が見えてきそうです。 ○ 毎日家庭と健康観察カードを通して体調の状態を把握し、マスク、検温、消毒が日常的に行えるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度も体力テスト結果を受けて、課題となる体力の向上を図る手立てとなる器具を運動場に設置して活用を図った。今後も体力向上プランに基づいて、教育活動全般を通して児童の体力向上を目指していく。 ○ 今後も家庭における健康観察と体調変化の情報提供に協力を呼びかけ、協力して迅速な対応が図られるようにしていく。

<p>小 ・ 中 ・ 高 連 携</p>	<p>【くしま学を核とした連携推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中高連携しながら、子どもたちに望ましい学習・家庭習慣を定着させる。 ○ 小中高一貫教育関連行事への積極的な参加を図る。 <p>【地域学校協働活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人材・素材を積極的に授業に取り入れるとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域と結びあう学校づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 小中連携した学習習慣・生活習慣の定着 □ 地域の人材・素材を取り入れた授業の実施 □ 地域への学校便り配付とフリー参観の実施 □ 学習発表会への招待。 	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の一貫教育に関する研修会や取組は、計画的に実施することができている。 ○ 修学旅行やふれあい体験などの活動は、十分配慮しながら実施し、他校との交流を図ることができた。 ○ 今年は、新しい試みで全児童で岬灯台のスケッチに取り組んだ。 ● コロナ禍にあり、以前のように地域の人材・素材を取り入れた授業ができていない。計画していた活動を中止せざるを得ない状況にあった。 ● 我が子たちの学習発表会は、じいちゃんやばあちゃんたちもいっぱい見に来ていました。コロナですが、そんな日が来るといいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍にあり、今後とも感染拡大防止の配慮を十分に行いながら、状況に合わせて可能な限り地域素材・人材を活用した学習活動を展開し、地域との連携を積極的に図る学校づくりを行っていく。
--	---	--	--	---